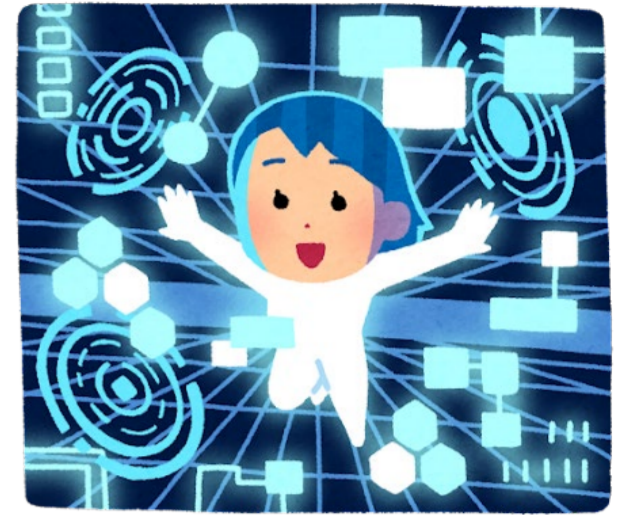


拡張テレワークを活用した働き方ビジョンの構築

ホー バック¹, 渡辺 健太郎¹, 大槻 麻衣², 木下 裕介³, 小早川真衣子⁴
¹サービス価値拡張研究チーム, ²スマートワークIoH研究チーム, ³東京大学, ⁴千葉工業大学

拡張テレワーク

人間拡張技術(特にAR/VR、アバター、マルチモーダル)を用いて時間・空間の制約を乗り越える未来の柔軟な働き方

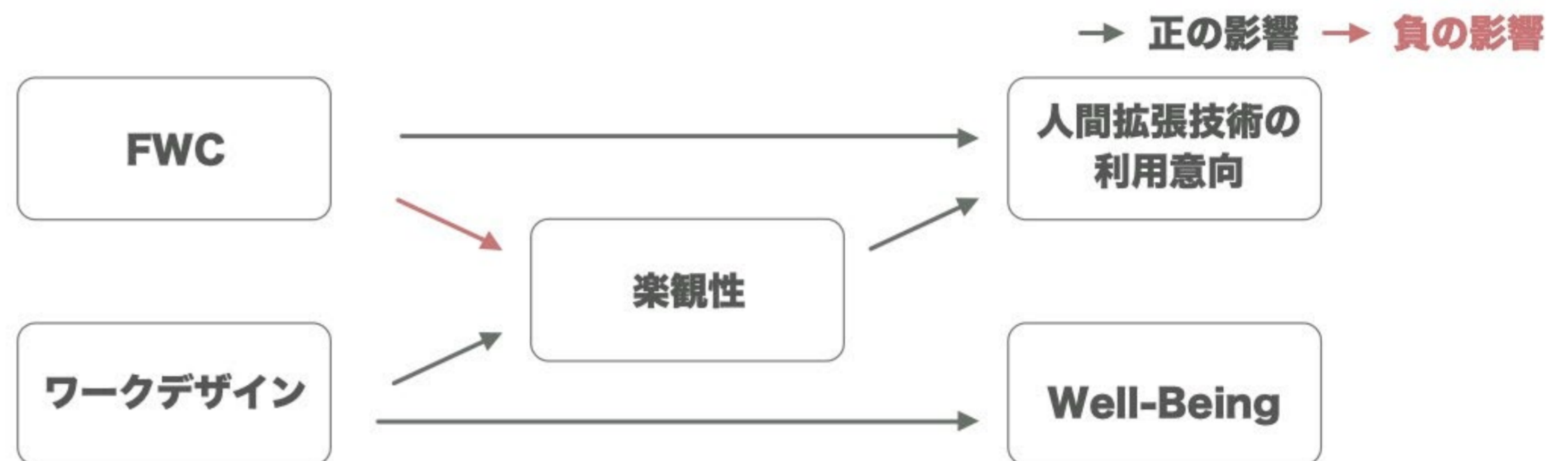


働き方ビジョンの構築プロセス

Step 1: ライフ・ワークスタイル分析

未来:生活と勤労が接続する
 ⇒ 接続されることに対するニーズ・課題の抽出

20名へのインタビュー & 3200名へのアンケート



※FWC=Family-Work Conflict: 家庭での役割が仕事の遂行に干渉する度合い

調査結果

- 自由にワークデザイン出来るとWell-Beingが高まる
- テクノロジーに楽観的だと人間拡張技術の需要が高まる
- 家庭から仕事への干渉があるとテクノロジーに楽観的になれない

Step 1
 ライフ・ワークスタイルの分析
 働き手の方から、今の働き方や生活やその課題、理想の働き方について、インタビューやアンケートを行って情報収集・分析します。

Step 2
 拡張テレワークの技術ロードマッピング
 拡張テレワークを実現するにあたり、際にある、あるいはこれから出てくる人間拡張技術を調査し、それにより実現できることを明らかにします。

Step 3
 拡張テレワークを用いた働き方ビジョンの共創デザイン

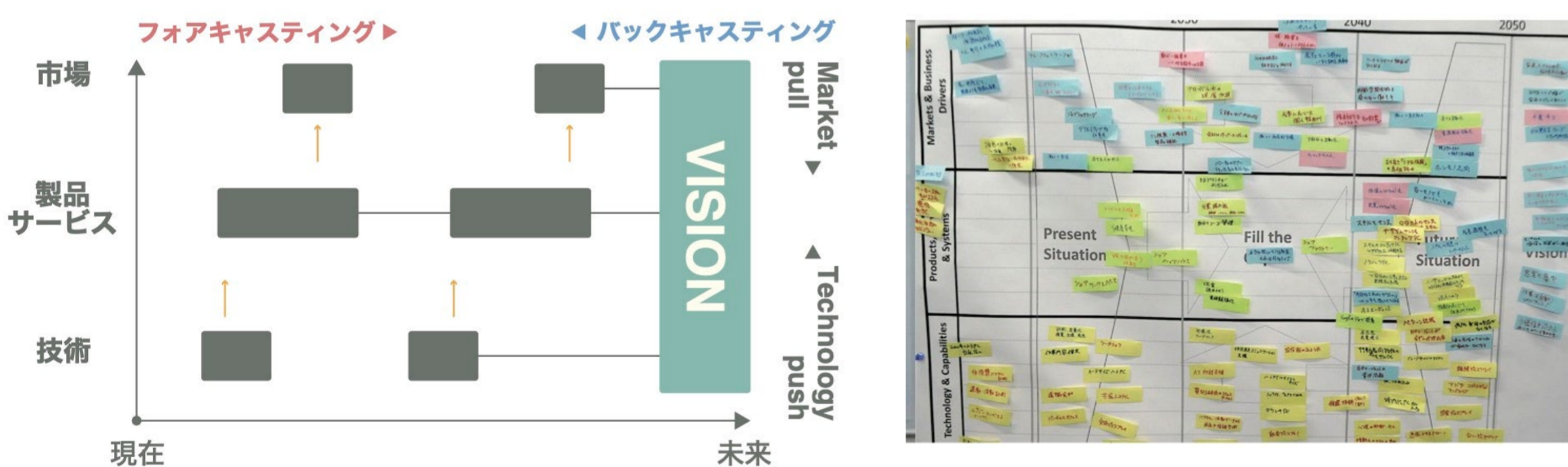
3-1 ビジョン共創ワークショップ
 今の働き手の課題やニーズ、人間拡張技術の動向を踏まえ、改めて働き手を交えて、働き方ビジョンを協働して描きます。

3-2 プロトタイプ体験及び評価
 作成したビジョンが有意義か、アクティンクアウト (p.16参照) やVRを活用して仮想的に体験・評価し、ビジョンを修正します。

働き方ビジョン

作成した働き方ビジョンは、企業の人事・就業支援施策や自治体のUターン・Iターン支援、技術開発企業の製品・サービス開発計画にも活用可能です。

Step 2: 技術ロードマッピング



ワークショップ成果例

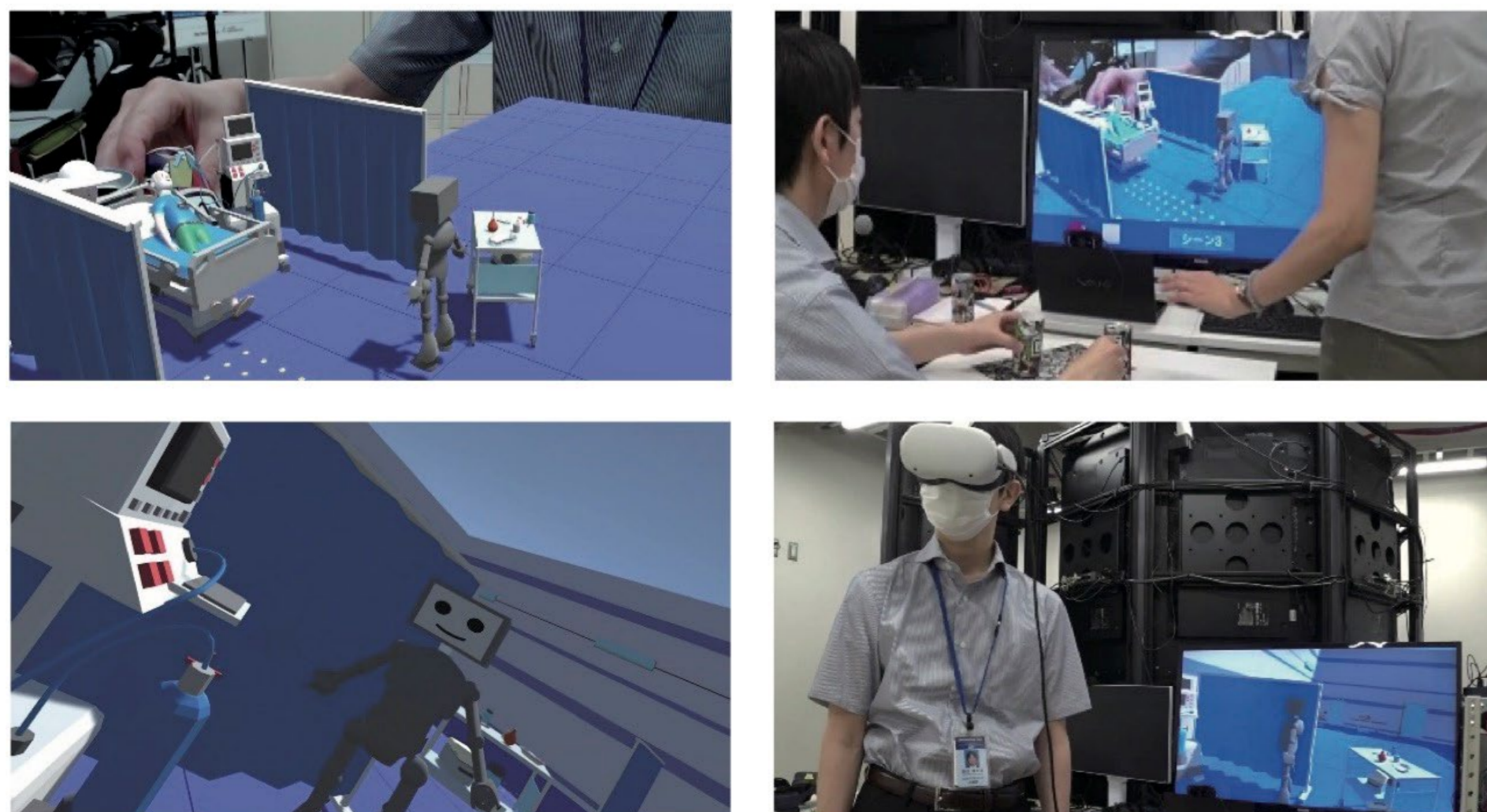
- 121個のキーワードがロードマップ上に描写
- 技術開発と人・社会との関係性を明確化
- 人間拡張技術によって「柔軟性」と「多様性」が高まるストーリーを作成

Step 3-1: ビジョン共創ワークショップ



- 「きっかけカード」を用いて体験作文を各々が作成
- グループで10年後の「未来作文」を作成
- 未来作文の関係を視覚化して模造紙に「物語地図」を創作
 - ナラティブを使って個々人の価値観を表出
 - 価値観の相違を理解

Step 3-2: 未来ビジョンの体験と改善



- ARを用いた人形劇
 - 自分の考えたストーリー(働き方ビジョン)を実現・記録
 - 音声(会話)も録音可能
 - いくつかの舞台(オフィス、病院、等)を用意
- VRを用いてストーリーに没入
 - 全ての登場人物に視点移動が可能
 - 何度でも繰り返し再生可能
 - ディスプレイ表示で周囲の人も再現の様子を観察可能